

観光地経営計画施策一覧

※緑の太字は戦略的重点プロジェクト。青の太字は後期に新規追加もしくは格上げしたもの。
※緑は行政・民間ともに3以上の評価を得られたもの。ピンクは行政・民間ともに2.4以下の評価だったもの

戦略体系		前期の取り組みと評価		前期+後期の取り組み				
戦略	施策	事業(以下の1~6は戦略的重点プロジェクト) 1.白馬連峰への眺望の魅力最大化プロジェクト 2.白馬村の核となるスキー場と宿泊拠点の再生プロジェクト 3.国際リゾートにふさわしい受入環境整備プロジェクト 4.魅力の多様化に向けたコンテンツ創出プロジェクト 【追加】5.地場産業と連携した地域経済の強化 【追加】6.「世界水準」を実現するための基盤づくりプロジェクト	前期(H28-30)で実施した事業名	行政評価	民間評価	優先的に取り組むもの(番号は関連する重点方針)	前期+後期(R1-4)で実施した事業名	
戦略1 観光の資産価値の最大化	1-1. 山岳景観の魅力向上	① 重載1	白馬連峰の眺望スポットの抽出	●ほ場整備事業(県+農政課) 北城南部地区のほ場整備事業。優良農地の確保、水田の汎用化及び区画の拡大化、担い手への集積・集約化などを実施。 ●北尾根高原の整備(八方尾根開発株式会社) フラワーネイチャーパーク、ご来光デッキ、キャノピーウィーク、ツリーデッキ、散策道、展望台を整備。ご来光ツアー、ギャラクシー高原も開催。(1057名集客)	3.1	3	①	●経営体育成基盤整備事業(農政課) 担い手を育成し、経営発展等に取り組む際に必要となる農業用機械・施設の導入等の支援を実施。 ●ほ場整備事業(県+農政課) 北城南部地区のほ場整備事業。優良農地の確保、水田の汎用化及び区画の拡大化、担い手への集積・集約化などを実施。 北城北部地区実施に向けた調整。
		② 重載1	白馬連峰の景観の魅力最大化	●白馬駅前検討会(村) 6回会議を開催し、白馬駅前の景観に関する検討を実施 ●白馬村景観計画の策定(総務課) 白馬村無電柱化計画(H30)と併せ、良質な景観形成に資するよう新たな取り組みにより魅力化を図る。			①	●白馬駅前整備検討会の開催と無電柱化事業の施工(村、県、白馬駅前整備検討会)
	1-2 農村景観・集落景観の魅力向上	①	四季それぞれ美しい農村景観・集落景観の選定		2.4	1.8		●ハクババレー八景の選定 地域を代表する景勝地として「ハクババレー八景」を選定。(HAKUBAVALLEY TOURISM)
		②	農村・集落の花による修景	●白馬アルプス花三昧(観光局) 7月1日から8月31日各観光スポットに花による修景 会場地を複合的に運営				●毎年7月の創立記念日において、桜の苗木を植樹。 白馬グリーンスポーツの森(マレットゴルフコース)〈白馬五竜IMORI〉
		③	空き家等の保全と活用	●起業支援補助事業(村) 空き店舗を活用した起業支援(1件)				●古い建造物の改修・撤去(オリンピック施設のリニューアルや活用方法の検討、古いリフトの撤去、空き家の整理(戦略1-2-③)、古い看板の撤去など)(村) ●白馬村空家等対策協議会設置要綱の策定(村)
	1-3. 滞在空間としての魅力向上	① 重載1	景観のコントロールによる滞在魅力の向上	●環境審議会(村) 環境基本条例の見直し等に対し検討を実施(年4回)	3.3	2.8	①	●景観行政団体へ移行及び白馬村景観計画の策定を完了、景観条例の施行(令和5年1月1日～)(建設課) ●新たに開発調整条例を施行(令和5年1月1日～)(建設課)
		② 重載1	オープンスペースの創出による滞在魅力の向上	●北尾根高原の夏場の新オープンスペース創出(八方尾根開発) ●コワーキングスペースの創造(総務課) 総務省の「ふるさとテレワーク推進事業」(H29)実施により、旧ノルウェービレッジの施設拡充を図り、サテライトオフィスやコワーキングスペースとして、新しい仕事の創出や多様な人々との交流を図った。(旧ノルウェービレッジH30.4-12月まで利用者数1,112名) ●「FIELD SUITE HAKUBA」(グランピング事業)を開始(八方尾根開発株式会社) 冬期は宿泊なしのデユースで開始。5月より宿泊営業開始。10/12.13.14でイベントを開催。1泊4食12万円の商品を提供。			①	●「FIELD SUITE HAKUBA」(グランピング事業)の営業開始。 令和3年は、コロナ禍により、ゼロ蜜リゾートとして認知され、最高売り上げを達成(八方尾根開発株式会社) ●ノルウェービレッジ指定管理業務の推進(コワーキングスペースの構築・運用による行政財産の有効活用の実施)(総務課)
		③	歩行者・自転車優先の安心で心地よい滞在空間づくり	●サイクリングツーリズム事業(観光局) 地域おこし協力隊員を中心とした自転車観光及び自転車環境の整備 ●姫川右岸 管理道路の造成(建設課+松本砂防事務所) ・平川、姫川合流点付近の右岸に管理用道路を造成し、通り抜け可能とする。将来的に自転車遊歩道として整備する。			●サイクリングツーリズム事業(観光局) 地域おこし協力隊員を中心とした自転車観光及び自転車環境の整備	
		④ 重載4	雨天時に対応可能な拠点づくり	●道の駅検討会(村) 新道の駅構想検討に着手。新道の駅構想についての策定は完了した。ただし、民間による類似施設の建設計画に基づき、重複する機能について確認することとした ●道の駅検討会(総務課) 新たな道の駅構想に向けた第一歩として、平成29年度に国土交通省の先導的官民連携事業の採択を受け、1万人規模の小規模市町村におけるPPP/PFIの手法による道の駅整備への方策を検討した。新たな魅力として、様々な要素を備付けた道の駅整備構想となった。			⑤	●新図書館検討会 官民連携調査の実施。(生涯学習スポーツ課)

戦略体系			前期の取り組みと評価			前期+後期の取り組み		
		⑤ 【新規】	リゾートとしてのグランドデザインの提示と推進					① ●インフラやサービスの連携によるスマートリゾートの実現 (キャッシュレス対応、Wi-Fi整備、AIオンデマンドタクシーの運行などスマートリゾートの実現)
戦略2 白馬村を訪れ滞在する価値の多様化	2-1 季節それぞれの新しい楽しみ方の創出	① 重戦4	屋内外でのアクティビティ充実	●平川:水と親しむイベント(平川を愛する会) ●平川:観察会(平川を愛する会) ●砂防ツアー<平川・松川砂防工事促進期成同盟会> ●白馬サイクルフェスタ<白馬五竜観光協会> 2018 6/9~10 村内各所にチェックポイント、エイドステーションを設け、タイムトライアルにせず、自由に回ってもらい、白馬の自然、名所、食を楽しんでもらう。500人参加 ●Mountain film on Tour in Hakuba<株 五竜> ●白馬五竜ナイトゴンドラ 2018<株 五竜> ●アルプス平でベルセウス座流星群を眺めよう。<株 五竜> ●レストラン外の芝生の上に置き形式のハンモックを設置し白馬の自然と食を同時に満喫できる環境整備<株 大系> ●どろんごドッジボール大会<白馬商工会> ●白馬コンサイクリング、ゲレコンin白馬<白馬商工会> ●あずみのセンチュリーライド 桜 緑(4月 1500名、5月 3,000名参加。) <AACR実行委員会 共催:白馬村> ●サイクルモードインターナショナル2018へ『ジテンシャ×旅』ブース出展<北アルプス地域振興局、参加:白馬村、大町市、小谷村> ●「Xtrem Aventures HAKUBA TSUGAIKE WOW!」(HAKUBAVALLEY) 開業3ヶ月(8月1日~10月31日)で8,000人超の利用。<白馬観光開発> ●マウンテンハーバーイベント<白馬観光開発> ●BMWモトロードJapan(実行委員会) ●ランドローバー70周年イベント	3.4	3.7	⑤ ●平川:水と親しむイベント(平川を愛する会) ●平川:観察会(平川を愛する会) ●白馬マウンテンハーバーの展開<株 岩岳リゾート> ●株 岩岳リゾートによる夏期アクティビティの充実(ブランコ、カート、乗馬など。) <株 岩岳リゾート> ●岩岳5線サウスの下記営業展開と「ハクバヒトキノモリ」での事業展開 <株 岩岳リゾート> ●2021/2022/2023「ヤッホーフェスティバル」の開催 <株 岩岳リゾート> ●2023夏までに自動巻き上げ方式の「ヤッホー! ジャイアントスイング(仮称)建設高さ10メートル<株 岩岳リゾート> ●エイブル白馬五竜IIMORIにマウンテンバイクコースの造成とキャンプサイトの造成を行い、夏場の白馬の魅力体験。(馬五竜IIMORI) ●マウンテンバイクによる白馬村の名所や穴場を巡るツアーを開催している。マウンテンバイクのレンタルもあり。<白馬五竜IIMORI>	
戦略2 白馬村を訪れ滞在する価値の多様化		② 重戦4	スポーツプログラムの強化	●バックカントリースキー大会の実施(fwt実行委員会) バックカントリースキーを白馬村で楽しめるようにするための環境整備(ルール作り、人材育成、安全管理体制構築、民間事業者の理解醸成など)を行う。そのシンボルとしてバックカントリースキーの国際大会であるFreeride World Tourを誘致し、白馬の国際的な知名度向上やブランド形成を図るとともに、バックカントリースキーの本場との交流を通じて安全管理者やガイドなど必要な人材の育成を進める。 ●岩岳マウンテンバイクパークの新設により夏季シーズンの誘客強化(白馬観光開発) ●白馬47マウンテンバイクコースの開設(白馬47)			⑤ ●5線リフトエリアの斜面に日本初のアクティビティであるマウンテンカートや、初心者向けのMTBショートコースを設置した。また、山頂エリアで乗馬体験を行う等グリーンシーズンのアクティビティを強化しオールシーズン利用可能なスポーツツーリズム実現を行った。<岩岳リゾート> ●全日本スキー選手権大会ジャンプ、ノルディックコンパインドの開催。(スポーツ課) 冬季オリンピック開催地として、全日本選手権大会を継続開催することにより、夏季のみならず冬季リゾートとしてのグレードアップ化を図る。 ●スノーハープクロスカントリー大会の開催(スポーツ課) サマーシーズンのメインスポーツイベントとして開催。スポーツツーリズムの推進(スポーツ課)	
		③	教育・学習的なプログラムの開発	●砂防カードの発行(第3弾:今回で終了予定)(治水砂防協会 姫川支部(姫川砂防事務所)) 砂防事業に感心を持ってもらうため、大北5市町村の道の駅に1枚づつ設置されているカードをすべて集めると姫川砂防事務所でシークレットカードがもらえる砂防カードラリー。 ●天空の天体ショー&流星群観察会、食の体験スタジオ(白馬観光開発)			●白馬村学習旅行会と協力し、県内外の中高生SDGs学習旅行の受入。(観光局) 「砂防施設をマウンテンバイクで周り、砂防施設の重要性と気候変動について考える」<白馬五竜IIMORI>	
	2-2 食と温泉を活用した滞在魅力向上	① 重戦4	白馬産食材の地産地消の推進	●第2期白馬村食育推進計画策定(村:○課) ●特産品開発等活動事業(農政課) 特産品生産・加工のための機械・器具類及び資材等の経費を補助することにより、農産物等を活用した特産品の生産・加工・販売の取組みを支援。 ●第11期クレーピー養成講座(白馬商工会) ●岩岳マウンテンハーバーでの地元食材活用(白馬観光開発) 「THE CITY BAKERY」では「白馬豚のクロワッサンサンド」を提供。			⑤ ●生産者との連携による地元産品の付加価値向上、商品開発、食の魅力づくり(質の向上、景観×食)(農政課) ●白馬ガレットクレーピー養成講座 令和元年度(第12期)受講者12名、令和4年度(第13期)受講者9名、第1期から第13期までのクレーピー取得者192名 次回は令和6年度講座開講予定<白馬商工会> ●長野県産の食材を前面に押し出した新ブランド「HAKUBA DELI」を山頂レストランのスカイークで展開した。また、新設した紅茶専門店CHAVATYでは信州産の果物をスコーンのクリーム味のフレーバーに使用するなど長野県産の食材をメニューに積極的に組み込んだ。<岩岳リゾート> ●白馬村産酒米(山恵錦)で純米吟醸酒「黒菱」を八方尾根観光協会が主体となり、白馬村、JA大北、長野県、薄井商店と協力を得ながら、田植え・稲刈りイベントを開催<八方尾根開発株式会社>	
		②	白馬村の水や空気を活かした食の魅力向上	●白馬産農産物のブランド化(村(農家)) ●北アルプス山麓ブランド(北アルプス山麓農畜産物ブランド運営委員会) 北アルプス山麓地域で特に優れた農畜産物を「北アルプス山麓ブランド」として認定し、地域産業の振興と地域活性化に向けた取組みを実施。認定品は平成30年度に100品を超えるまでに拡大。 ●日本酒「黒菱」生産開発(八方尾根開発株式会社) 平成29年より 長野県 白馬村 JA大北 薄井商店の協力の下、新しい酒米「山恵錦」を使った ●日本で唯一天然水素を含む八方温泉でアンチエイジングアビール(八方尾根開発株式会社) 東工大、地球生命研究所による、「生命の起源」研究に協力。東工大教授による、白馬高校、大町岳陽高校への出張事業企画アレンジ。平成28年29年と生命の起源シンポジウム開催	2.9	2.8	●特産品開発等活動事業(農政課) 特産品生産・加工のための機械・器具類及び資材等の経費を補助することにより、農産物等を活用した特産品の生産・加工・販売の取組みを支援。	
		③ 重戦4	温泉の特色を生かした魅力づくり				⑤ ●温泉施設の利用促進(白馬村温泉施設連絡協議会) 村内温泉施設が利用できる共通入浴券(100円・15枚綴り・販売価格1,200円)を観光局で制作し、協議会で販売。 令和4年度販売実績1,507冊 内、ふるさと納税返礼品用250冊 また、令和4年度は、JR東日本長野支社が実施した「旅する北信濃(観光Maas)」と連携して共通入浴券の販売促進を図り、温泉施設の利用促進を展開と、JR東日本の広報媒体による白馬の温泉情報の発信。 ●インバウンドの魅力向上に向けて、冬期「おびなたの湯」貸切事業を開始。12~2月は完売。<八方尾根開発株式会社>	
		④	食や温泉をテーマにしたイベントの創出	●秋の味覚フェア(村(農政課)) 毎年11月に行われる白馬村文化祭において「白馬産米食味フェア」を開催(H25~)。米をはじめとする地場産特産品を村内事業者へ紹介し、地域内流通の促進を図る。 ●白馬ガレットフェスタ 2018(株 五竜) 9/23(日)10:00~15:00 ガレット食べ比べ、ガレットに合うお酒の提供、クラフトビール、ワーク			●「週末マルシェ」開催 白馬村の地場産品や本村周辺の地域の「いいもの」が集まる「週末マルシェ」を開催。<スノーピークLANDSTATION HAKUBA>	

戦略体系			前期の取り組みと評価			前期+後期の取り組み		
2-3 歴史・文化・芸術 資源の 継承・活用	① 重戦4	歴史・文化資源の発掘と活用	●青鬼配布限定のチラシ「青鬼通信」の作成配布(白馬村) ●唐松沢水河の確認調査(白馬村)	2.3	1.3	⑤	●里山集落の保全と連携(住民との合意形成や認定ガイドによるガイドプログラムの実施等)(村) ●青鬼配布限定のチラシ「青鬼通信」の作成配布(観光課) ●唐松沢水河の確認調査(観光課・生涯学習スポーツ課)	
	② 重戦4	歴史・文化資源を活用したプログラム開発	●氷河認定記念カクネ里雪渓ツアー(榊 五竜) 7/22 8/11 10/7 カクネ里雪渓が見える小遠見山までの、ガイド先導でトレッキング			⑤	●クラウドファンディング 杓子沢氷河調査ツアー(生涯学習スポーツ課) 新潟大学・白馬山案内組合の調査隊に同行。	
	③	美術館や地元在住の工芸家との連携強化	●レストランのエントランスにエコランド在住の工芸家の商品を置き、工場案内会の掲示(大系)				●レストランのエントランスにエコランド在住の工芸家の商品を置き、工場案内会の掲示(大系)	
戦略3 観光の魅力要素の次世代への継承	3-1 自然環境資源の保全	① 重戦3	水資源の保全活動の推進	2.2	2.6	③	●木流川清掃活動(農政課) 毎年4月に木流川流域の区民、木流川と親しむ会、村がゴミ拾い等の清掃活動を実施	
	② 重戦3	宿泊施設のエコ認証制度の創設				③	●木流川清掃活動(農政課) 毎年4月に木流川流域の区民、木流川と親しむ会、村がゴミ拾い等の清掃活動を実施 ●庁内職員のエコ通勤期間の設定(信州スマートムーブ通勤との連携)(総務課) ●環境対策補助金の創設等(電気自動車等購入促進事業補助金、省エネ家電等買換え促進事業補助金、太陽光発電設備設置補助金、EV充電設備設置補助金)(総務課) ●公用車両最適化実証モデル事業の実施(モビリティパスポート・R4)(総務課) ●EVシェアリング事業(総務課) ●社員への自転車購入費用補助制度を執行。(白馬五竜IIMORI) ●各事業所へ電気自転車を購入し、自転車活用を推進。(白馬五竜IIMORI) ●宿泊イノベーションチームによるエコ認証制度開始	
	③ 重戦3	エコカーや電気自動車、自転車の導入推進	●公用車のプラグインハイブリッド車導入(白馬村) 2台導入 ●平成27年7月電気自動車1台導入、平成28年ハイブリッド車1台導入、2018-19シーズンより、クリーンディーゼルエンジン(フォーファイナル)搭載圧雪車を導入(八方尾根開発株式会社) ●電気自動車のシェアリングサービス「白馬EVシェアリング」(白馬村) 平成30年8月1日から31年1月10日まで電気自動車貸出サービスを実施。延べ貸出者数50名			③		
	④ 重戦3 【新規】	地域全体でのSDGsの取り組み				③	●「HAKUBA VALLEY SDGsビジョン」(2020年10月)の推進 (HAKUBA VALLEY TOURISM) ●気候非常事態宣言(R1.12月)策定(村) ●白馬村気候非常事態宣言(R1.12月)(村) ●ゼロカーボンシティ宣言(R2.2月)(村) ●白馬村ゼロカーボンビジョンの策定(R3.1月)(村) ●白馬村庁内小水力発電研究会の設置と小水力発電導入スキームの構築等(村) ●GREEN WORK HAKUBAの開催(観光局)	
戦略3 観光の魅力要素の次世代への継承	3-2 文化・生活資源の保全	① 重戦4	歴史・文化資源の発掘と活用<再掲2-3. ①>	3.2	2.6	⑤	●杓子沢氷河調査の実施(生涯学習スポーツ課)	
	②	空き家等の保全と活用 <再掲1-2. ③>	●「自然と伝統の融合した白馬岩岳の街並み活性化株式会社」設立と「高級古民家リゾート」の開発・運営(白馬観光開発株式会社) 白馬観光開発株式会社は、ALL信州観光活性化ファンド、NECキャピタルソリューション株式会社、FUNNY株式会社と、長野県白馬村岩岳エリアの観光資源を再生し、“街並み”全体を一体的なリゾートとして捉え、開発・運営する新会社「自然と伝統の融合した白馬岩岳の街並み活性化株式会社」を設立。ハイエンドの観光客にもご満足いただける「高級古民家リゾート」の開発・運営を開始。				●「自然と伝統の融合した白馬岩岳の街並みの通年での活性化加速化事業」として「元気づけ支援金を活用した街並みのライトアップ事業。集落を提灯で和モダンの雰囲気ライトアップ。岩岳観光協会平成31年～令和2年<榊岩岳リゾート>	
戦略4 宿泊施設とスキー場の再活性化	4-1 宿泊施設の戦略的な活性化	① 重戦2	宿泊施設のサービス形態見直し・多様化による競争力強化	2.2	2.3	②	●「宿泊産業イノベーション研修」参加者によるプロジェクト実施(観光課) 令和2年度～令和4年度研修会の実施。令和5年度より任意の自主組織により事業開始。 ●「宿泊産業委の弁償研修会」の実施に向けての検討を始める2023/2～<榊岩岳リゾート>	
	② 重戦2	宿泊施設のサービス共通化による効率化				②		
	4-2 スキー場の戦略的な活性化	① 重戦2	スキー場の施設更新による競争力強化			3.7	3.2	②
② 重戦2	スキー場のサービス共通化による効率化	●Hakubavalley共通ゲートシステムの導入(索道事業者) ゲートシステム導入及びネットショップ開設、ソフト事業に推進交付金使用 ●2017-18シーズンに、リーゼンコース下部の名木山パブリックに人工降雪システム12台を導入。(八方尾根索道事業者協議会) シーズン当初と4月中旬まで雪が残り、下山ルートが確保できお客様にも好評だった。2018-19シーズンはリーゼンコース中間に15台増設予定。 ●スキー場内テナント施設の誘致(白馬観光開発) 八方:コロナエスケープテラス、うさぎ平カフェ(スターバックス WPS)、軽井沢プリモ白馬店 岩岳:TYハーバー Pop Up Bar ●新ゲレンデエリア設定(白馬観光開発) ・ゲレンデ内新エリア(2018-19) 八方:アドベンチャーパウダーエリア“OMUSUBI” 岩岳:白馬山麓最大級のツリーラン&パウダーエリア“Iwatake Back Bowl” ●人工降雪機の更新(白馬観光開発、八方尾根開発) 平成29年13台、平成30年15台を更新	②					
			●Hakubavalley共通ゲートシステムの導入(索道事業者) ゲートシステム導入及びネットショップ開設、ソフト事業に推進交付金使用 ●EpicPassとHakubaValleyとの提携によるシーズンパス(HakubaValleyプロモーションボード) 提携により8か国55リゾートにて利用可能					

戦略体系				前期の取り組みと評価				前期+後期の取り組み			
戦略5 地場産業と連携した地域経済の強化	5-1 地場産品の活用促進	① 重点5 【格上げ】	地場産品の流通ルートの確保	●第2期白馬村食育推進計画策定(村) 施策に「地場産品供給ルートの整備」を掲げる。 ●農業と観光連携事業(県(北アルプス地域振興局農政課)、長野県北アルプス農業改良普及センター)、村(観光課、農政課)大北農協(JA北部営農センター)) 観光宿泊事業者と農業者が地場産食材を利用する取組み。平成29年度に宿泊事業者を対象にアンケートを実施し、地元食材を利用したいと回答のあった宿泊事業者を対象に平成30年度は、試験的に地元食材の利用の取組みを6月から開始した。 ●北アルプス農畜産物ブランドB級グルメメニュー(北アルプス山麓5市町村、北アルプス山麓ブランド運営委員会) 町村毎に認定ブランド品を効果的に使った「北アルプス山麓ブランドB級グルメ」メニューを公募。 白馬つけみそラーメンが受賞 ●夏のマルシェ信州(楨 五竜) 地元で採れる新鮮な野菜や、果物をお値打ち価格で販売する。(マルシェ信州)	3	2.2	②	●第2期白馬村食育推進計画策定(健康福祉課) 施策に「地場産品供給ルートの整備」を掲げる。 ●農業と観光連携事業(県(北アルプス地域振興局農政課)、長野県北アルプス農業改良普及センター)、村(観光課、農政課)大北農協(JA北部営農センター))			
		② 重点5 【格上げ】	地場産品の販売拠点の強化	●第2期白馬村食育推進計画策定(村) 施策に「地場産品供給ルートの整備」を掲げる。			②	●第3期白馬村食育推進計画策定(健康福祉課・農政課) 地域農家、JAによる学校給食への地場産品供給			
		③ 重点5 【格上げ】	白馬産食材を提供する飲食店の強化	●第2期白馬村食育推進計画策定(村) 施策に「地場産品供給ルートの整備」を掲げる。			②	●第3期白馬村食育推進計画策定(健康福祉課・農政課) 地域農家、JAによる学校給食への地場産品供給			
	5-2 域内調達率の向上	① 重点5 【格上げ】	販売商品や原材料の域内調達率の向上		1.6	2.5	②	●産業連関表作成(観光課・総務課)			
		② 重点5 【格上げ】	観光産業の地元雇用率の向上				②	●地元(周辺エリア含む)の食材の掘り起こしと商品としてのブラッシュアップ(農政課)			
戦略6 観光を支える担い手の育成・支援	6-1 観光産業界の人材確保・育成	① 重点6 【格上げ】	観光産業界の人材育成	●「白馬村起業支援事業補助金交付要綱」制定と企業支援(白馬商工会) 商工会で主催している白馬創業塾修了者を対象に起業に係る経費の1/2を補助(上限100万円)H28年度5件、29年度10件に補助金を交付手続きを支援し、また経営支援にも取り組む。 ●高校生ホテル 等(白馬高校支援) 国際観光科2年生を対象に高校生ホテルを開催。高校生が1泊限定のホテルの企画と運営を行った。また、国際観光科3年生の希望者を対象に村内の観光関連会社4社において実習を行い、観光の現場で直接学ぶ機会を設け、観光人材育成に繋がる取り組みを行った。	3	3.5	⑥	●みらい教育サポーターと協力して実施したデュアル学習を通じ、地域資源を生かした観光の人材育成(白馬高校支援) ●高校生ホテル 等(白馬高校支援) 国際観光科2年生を対象に高校生ホテルを開催。高校生が1泊限定のホテルの企画と運営を行った。また、国際観光科3年生の希望者を対象に村内の観光関連会社4社において実習を行い、観光の現場で直接学ぶ機会を設け、観光人材育成に繋がる取り組みを行った。			
		② 重点6 【格上げ】	観光産業界の人材を確保する環境整備				⑥	●企業版ふるさと納税活用による「白馬高校を卒業後に白馬村内に就職した者等の返還すべき奨学金の一部を補助する制度の活用。(総務課)			
	6-2 新しい観光の担い手の育成・支援	①	白馬村民が白馬の魅力を知って伝える				●白馬マイスター制度の活用(観光局)				
	戦略6 観光を支える担い手の育成・支援	7-1 誰にでもわかりやすい情報提供	②	白馬高校国際観光科との連携強化	●信州DC事業(白馬高校) JR白馬駅にて優等列車到着時にお出迎え、お見送り等の実施 ●セミナー開催(白馬商工会) 面接対策セミナー・白馬探求プロジェクト・就職支援事業・キャリアカウンセリング等を実施し、生徒が主体的に自己の進路を選択・決定できる能力を高め、地域を活性し観光産業の道筋を作り、将来活躍できる人づくりを目標とし、勤労観職業観の醸成につなげる。	3	3	●地域資源・観光についてのPR活動(白馬高校) 地域の食や文化をSNS等で発信 ●白馬高校「WAKA村隊」との連携による食の魅力発信連携事業(白馬商工会青年部) 令和3年度に飲食店情報サイト「ハクバメシ」を開設し、コロナ禍でのテイクアウト情報や村内飲食店情報発信に着手。 現在36店舗が参加。 このサイトとリンクしながら、白馬高校「WAKA村隊」による飲食店や白馬の話題等を発信中。			
③			観光関連事業の創業支援	●白馬創業塾の開催(白馬商工会)H27-30年度は第4期生を募集し、10月に開催予定。関係機関と連携しながら創業支援体制をコーディネート。過去3年間で118名の受講があり、内40人が宿泊業や飲食業を創業した。	●白馬創業塾の継続開催(白馬商工会) 元年度から4年度の受講者は以下のとおり。なお、令和3年度、4年度はコロナ禍開催につき人数を制限して開催した。 ・元年度(第5期) 51名 ・2年度(第6期) 51名 ・3年度(第7期) 32名 ・4年度(第8期) 23名 第1期からの受講者数は延べ300名、内、7期までの創業者は65名。5年度は10月に実施。 ●事業承継支援(白馬商工会) 令和5年度は、事業承継の方法や具体的な進め方などを学ぶセミナー及び個別相談会を以下の内容で開催する。令和6年度以降も継続して事業承継に向けての事業者の相談支援を行う。 また、事業を承継する者に対する創業や経営支援を行う。 第1回:事業承継の全体像 第2回:事業承継に利用できる補助制度 第3回:税制・融資・後継者マッチング						
④			観光に対する意識の醸成・共有を図る場の充実	●白馬村観光地経営会議(村) 来訪者アンケート調査の実施と同会議(年3回)の開催	●白馬村観光地経営会議(観光課) 中期で見直しを行い後期計画がスタート						
戦略7 誰もが安心してできる観光受入体制の構築	7-1 誰にでもわかりやすい情報提供	①	観光情報の一元管理・提供	●白馬アプリ(仮称)開発(観光局) 地域内のアクティビティ事業者やレストランなどの具体的なメニュー、価格等を網羅的に調査。その上で、アンビューや食べログ等の既存のプラットフォームとも連携しつつ、Web上で予約可能でレビュー等の記載を通じたレーティングも可能となる、観光情報・予約プラットフォームを構築し、観光客がワンストップでリアルタイムに予約できるシステムを構築	2.5	2.3					
		②	目的に即した情報発信ツールの活用								
		③ 重載3	誰にでもわかりやすい案内標識類の統一	●山の統一標識の策定			①	●「HAKUBAVALLEYエリア景観デザインコード計画」に基づくサイン整備(HAKUBAVALLEY TOURISM))			

戦略体系			前期の取り組みと評価		前期+後期の取り組み			
7-2 誰でも利用しやすい滞在環境整備	① 重戦3	① ひと目でわかるシャトルバスの運行	●白馬バレーバス、ナイトシャトルバス、花三味バス、アルペンライナー等運行(村、Hakubavalley事務局、北アルプス三市村観光連絡会)	3.3	2.8	①	●インフラやサービスの連携によるスマートリゾートの実現(キャッシュレス対応、Wi-Fi整備、白馬ならではの環境配慮型二次交通の整備などスマートリゾートの実現)	
		② 重戦3	●独自のシャトルバス運行表の作成(大系)乗継や行先などが分かりやすいよう1枚の表にまとめた。バス停の案内板も改良				●白馬バレーバス、アルペンライナー、AIナイトデマンドタクシーの運行(村、(HAKUBAVALLEY TOURISM)、北アルプス三市村観光連絡会)冬期間の二次交通確保	
		③ 重戦3	●白馬バレーバス、ナイトシャトルバスの運行(村、Hakubavalley事務局、北アルプス三市村観光連絡会)冬期間の二次交通確保				●R3・地域交通最適化支援業務の実施(R4～・デジ田テレワーク交付金を活用した地域交通分析・提言業務)(総務課)	
7-3 危機管理体制の構築	① 重戦3	① 冬場のタクシー不足の解消	●北アルプスあずみの交通圏の策定(タクシー協会)交通圏の拡大により南安曇からの冬期のタクシー応援が可能に。	2.9	2.5	④	●R2・地域課題マッチング支援事業(長野県・チャレンジながの)採択による民間事業者との連携事業の検討開始(観光課)	
		② 重戦3	●公共交通網形成計画策定(村(総務課))公共交通という定義に基づいた本村の公共交通のあり方について、これまで観光事業者や村と、それぞれの機関で実施していたものを一元化できないかということで、平成30年度に公共交通網形成計画策定に向けて取り組んでいる。具体的な交通網形成については平成30年度末に策定				●白馬村観光防災マニュアルの浸透(観光課)	
		③ 重戦3	●スマート決済導入セミナー(国土交通省、長野県観光部)中国で普及しているスマート決済の導入セミナーを開催				●関係機関(医療機関、保健所等)との連携強化と関係者のネットワークづくり(観光課)コロナ禍で、県、村、医療機関、観光協会、保健所が連携して対応を行った。	
戦略8 地域全体での白馬ブランドの構築	① 重戦3	① 災害発生時等に対応する危機管理体制の構築	●白馬村地域防災計画の改定(村)・住民主導型避難体制づくりに取り組んでいる。(蔵平、飯田)	1.7	2		●事業持続力強化支援計画の策定(白馬商工会)中小企業強靱化法及び小規模事業者支援法に基づき、小規模事業者の防災・減災対策を支援する為、村と共同して小規模事業者の事業継続力強化を支援するための計画を策定する。	
		② 重戦3	●防災行政無線に代わるシステムを構築(村(総務課))防災行政無線は各戸・屋外においてオンタイムで聞ける人のみとなることから、これら解消に向けて住民や観光客も情報を得ることができるシステムとする。				●R3.1から白馬村防災アプリを公開。R4年度末までのダウンロード数は2,500件。(総務課)	
		③ 重戦3	●観光地BCP計画の共同研究(村(観光課))災害等における観光地の回復計画として観光地版のBCP計画を研究する				●第3期白馬村食育推進計画策定(健康福祉課・農政課)制度創設までに至っていない	
戦略9 計画推進体制の構築と財源の確保	① 重点6【格上げ】	① 白馬村の先鋭的な魅力の差別化		2.8	2.5	⑥	●観光地経営会議の見直し(観光課)R5～	
		② 重戦3	① 来訪者の声を活かした魅力の再発見				●hakubavalleyDMO候補法人登録(村・HAKUBAVALLEY事務局)平成31年4月に立上げ予定	●hakubavalleyDMO候補法人登録(村・HAKUBAVALLEY事務局)令元設立
		③ 重戦3	① 白馬産食材を活用した食の認証制度				●第2期白馬村食育推進計画策定(村)地産地消推進の店(仮称)制度創設を予算化	●後期の目標を再度確認した上で観光財源導入に向けた検討再開(総務課・観光課・税務課)
戦略9 計画推進体制の構築と財源の確保	① 重点6【格上げ】	② 重戦3	② 宿泊施設のエコ認証制度の創設<再掲3-1. ②>	2.8	2.5	⑥	●地方創生推進交付金、元気づくり支援金の活用(村、観光局、三市村)魅力創出、二次交通、自転車関係、その他。総額750,000,000円	
		③ 重戦3	① 情報媒体のデザイン統一				●観光財源としての独自財源の検討(村・観光局)	●ふるさと納税の活用(総務課)個人、企業版、クラウドファンディング
		④ 重戦3	② 外部からの多様な資金調達方策の検討				●観光税等の研究検討(総務課)平成29年度に、白馬村執行機関の附属機関の設置等に関する条例を制定し、村長の諮問機関として、白馬村観光振興のための財源確保検討委員会を設置し、平成30年度で検討している。平成30年度中に計4回の会議を開催。関連してWG会議を計3回開催した	●クラウドファンディング活用支援(村(総務課))新たに起業する職種について、クラウドファンディングを活用した、ふるさと納税制度に向けた制度設計を平成30年度にまとめる。これにより賛同する方の意思に則ったと判断される場合には村からの支援を行うこととなる。例規等の整備済。
戦略10 計画推進の基盤となる統計の整備	① 重点6【格上げ】	① 既存組織を含む推進体制の見直し	●白馬村観光局のDMO候補法人登録(観光局)	2.8	2.3	⑥	●各主体の連携によるデジタルマーケティングの実施と情報共有の仕組みづくり(DXを意識した調査方法のトータルな見直し。)(村・観光局)	
		② 重点6【格上げ】	② 統計データの共有・活用				●アンケートの実施(村、索道事業者)来訪者満足度等調査を実施	●産業連関表、RESAS等経済分析システムの活用を意識した庁内施策立案の開始(R3～)(総務課)